



2015年1月30日

各位

会社名 アステラス製薬株式会社
代表者 代表取締役社長 畑中好彦
コード番号 4503
(URL <http://www.astellas.com/jp>)
東証 (第一部)
決算期 3月
問い合わせ先 広報部長 河村 真
Tel: (03) 3244-3201

アステラス製薬:米国イミュノミック セラピューティクス社との スギ花粉症に対する治療ワクチン JRC2-LAMP-vax の開発・商業化に 関するライセンス契約締結のお知らせ

アステラス製薬株式会社(本社:東京、社長:畑中 好彦、以下「アステラス製薬」)は、イミュノミック セラピューティクス社(英名: Immunomic Therapeutics, Inc、本社:米国ペンシルバニア州ハーシー)と、同社が創製し、スギ花粉症を対象疾患として開発している治療ワクチン JRC2-LAMP-vax について、日本における独占的な開発・商業化のライセンス契約を締結しましたので、お知らせします。

日本におけるスギ花粉症の有病率は、1998年から2008年の10年間で、16.2%から26.5%と増加しており、多くの方がその症状に悩まされています。(「鼻アレルギー診断ガイドライン2013」より)。現在、スギ花粉症に対する主な治療法は対症療法であり、長期に渡る治療による医療費ならびに患者さんの負担は深刻な問題となっています。

JRC2-LAMP-vax は、イミュノミック セラピューティクス社がジョーンズ・ホプキンス大学からライセンス許諾を受けている LAMP-vax プラットホームを使って開発したスギ花粉症に対する治療ワクチンで、スギの主要なアレルゲンである Cry j1 および Cry j2 をコードする2つのDNAプラスミドを含有する製剤です。それぞれのアレルゲンは LAMP との融合タンパク質として発現するように設計されており、免疫系反応を Th2 型の IgE を介したアレルギー性反応から、Th1 型の IgG を介した反応(非アレルギー性反応)へとシフトさせることで、アレルギー症状を改善します。また、従来の減感作療法より短い治療期間における数回の投与で、長期的な症状寛解を可能とする根本治療を目指しています。

本契約に基づき、アステラス製薬は、日本における JRC2-LAMP-vax の独占的な開発・商業化の権利を取得すると共に、開発にかかる費用を負担します。現在、日本における JRC2-LAMP-vax の第 I 相試験の開始に向け、準備を進めています。

更に、アステラス製薬は、日本におけるスギ花粉症以外のアレルギー疾患を対象とした LAMP-vax プラットホームを用いたワクチンに関するライセンスについて、独占的な交渉権を留保しています。

アステラス製薬は、本契約の締結に当たり 15 百万米ドルをイミュノミック セラピューティクス社に支払います。更に、開発・承認の進捗に応じたマイルストーン、及び技術移転料として、最大で総額 55 百万米ドルをイミュノミック セラピューティクス社に支払う可能性があります。また、売上に応じた二桁台のロイヤルティをイミュノミック セラピューティクス社に支払います。

アステラス製薬の上席執行役員・経営戦略担当である安川 健司は、次のように述べています。「イミュノミック セラピューティクス社が利用する LAMP-vax プラットホームは、アレルギー疾患に対する次世代の治療ワクチンの提供を可能とする新しい技術です。本提携により、日本国民の約 4 分の 1 は罹患していると言われているスギ花粉症に対して、安全で、かつ短い投与期間で治療を可能とするスギ花粉症治療ワクチンという選択肢を届けられることを期待しています。」

イミュノミック セラピューティクス社の President 兼 CEO である Dr. William Hearl は、次のように述べています。「この度、グローバルな製薬企業であり、常に革新的な新薬や技術の開発に挑戦しているアステラス製薬と提携できることを大変嬉しく思います。本提携を通じ、JRC2-LAMP-vax が、スギ花粉症に苦しむ多くの患者さんに、長期にわたり治療効果を期待できる新たなソリューションを提供できるものと期待しています。」

なお、本提携による業績への影響は、2014 年 10 月 31 日に修正公表した 2015 年 3 月期通期業績予想に織り込まれています。

以上

#####

LAMP-vaxTMプラットフォームについて

Lysosomal Associated Membrane Protein (LAMP ; リソソーム膜タンパク質)は、リソソーム膜表面に局在する糖たんぱく質です。抗原提示細胞によって取り込まれた外来性抗原は、リソソームで消化され、リソソーム内の MHC クラス II 分子と結合して免疫系に抗原提示されます。LAMP-vax DNA ワクチンは、LAMP がリソソーム内で MHC クラス II 分子と共存する性質を利用することで、効率的な抗原提示を誘導し、その結果ワクチンに対する免疫応答を大幅に強化します。

LAMP-vax DNA ワクチンを接種すると、DNA は抗原提示細胞によって取り込まれ、細胞内で DNA にコードされた抗原と LAMP との融合タンパク質が発現します。この様にして、LAMP-vax DNA ワクチンは、抗原提示細胞を介して CD4 陽性ヘルパーT 細胞応答を惹起します。従来の DNA ワクチンは、主として MHC クラス I 分子を介した細胞傷害性 T 細胞応

答を誘導しますが、LAMP-vax DNA ワクチンは CD8 陽性の細胞傷害性 T 細胞応答を減弱させることなく、さらに CD4 陽性ヘルパーT 細胞応答も誘導するという特長があります。この特長により、より完全な免疫応答、すなわち抗体産生の誘導やサイトカイン分泌、免疫記憶の成立が期待されます。